

子どもの歌唱表現に関する一考察

－幼稚園における歌唱指導を通して－

大森 由美子（幼児音楽）

1. はじめに

通りを歩いていると、時折、子どもたちの元気な歌声が表まで聞こえてくることがある。

「ああ、こんなところに幼稚園がある」と微笑ましい思いで近づいてみると、その声は、歌っているというよりほとんど「どなり声」に近く、歌詞の意味はもちろん言葉自体が聞き取れない場合があったりする。そんな時に、「いったい、この子どもたちの喉は、始終こんな大声をだしていて大丈夫だろうか」と心配になったりする。

このような集団歌唱の場合において子どもたちが慢性的に「どなり声」でうたっている現象は、これまでも研究者によって指摘されているにもかかわらず、社会的には「元気でいかにも子どもらしい声」として、肯定的に受け止められることが多い。

しかしながら、幼少時における慢性的な「どなり声」は、いまだ柔らかい幼児の声帯を傷める恐れがあり、決して好ましいこととは言えないものがある。さらには、幼児が、音楽の持つ「美しさ」の本質を感じ取ることを妨げる場合さえ考えられる。これらは「表現」の趣旨に逆行するものと言える。

一方、今回、改訂された「幼稚園教育要領」の領域「表現」には「表現する過程を大切にしていして自己表現を楽しめるように工夫すること」という言葉が付け加えられ、教師は幼児の心の動きを大切に受け止めながら、幼児が表現する喜びを十分に味わえるように援助・指導することがこれまで以上に求められている。

以下に、筆者がこれまでに幼稚園において子どもたちに歌唱指導を行った体験から、幼児の音楽表現活動に関して考察を行うものとする。

2. 対象及び方法

1. 対象の属性

A幼稚園（岐阜市）

16年度 年少（3歳児）42名
年中（4歳児）54名
年長（5歳児）49名

17年度 年少（3歳児）44名
年中（4歳児）50名
年長（5歳児）54名

18年度 年少（3歳児）40名
年中（4歳児）46名
年長（5歳児）40名

2. 指導の期間と方法

平成16年11月から平成19年1月までの期間、幼稚園の行事の日程と調整しながら、園児に対して月1～2回の歌唱指導を行った。

指導は、各クラス20～30分間の時間をとり、クラスの全員を対象として、姿勢、腹式呼吸、自然で無理のない発声法、等に注意したうえで、子どもたちが存分に声を出して、楽しくのびのびと歌うことを心がけた。

3. 結果及び考察

① 5歳児クラスの歌唱指導例(初回)

：平成16年11月24日

イ) 腹式呼吸

『今日はみんなの誕生日で、前にはお祝いのケーキがある』という設定を園児達に説明をする。そのうえで、まず「ケーキ」のいいにおいを口を閉じて鼻からおなかにいっぱい吸い込むよう指導する。

次に「ローソクを吹き消そう」と言って、まず全員が1回で「フーッ」と吹き消してみる。次に2回で「フッフーッ」さらに3回で「フッフッフーッ」と吹き消してみる。

ロ) 発声練習

まず筆者が大きなあくびをやってみせて、それを園児達にまねをさせる。次に大きなあくびをしながら、全員が「ドレミレド」の音階でゆっくりと「ア～ア～ア」と発声練習をする。

ハ) 歌

「あわてん坊のサンタクロース」等の既習曲を全員でうたう。

考察

歌唱指導の初回であったので、何よりもまず、楽しくわかりやすい指導を心がけた。

「誕生祝いのケーキ」を設定したことで、園児達は皆、笑顔になった。筆者が大きく息を吸い込んだりローソクを力いっぱい吹き消す動作をすると、園児達もまねをして、何回もくり返して楽しんだ。

のどから大声を出すのではなく、おなかを使って体全体で声を出すことを幼児に理解させるために、ことばによる説明ではなく、おなかに息を吸い込んだり吐いたりする様子を全員に筆者のおなかをさわらせることで実感させるようにした。

筆者のおなかをさわって腹式呼吸の実際にくれた園児達はおなかが大きくなるのび縮みして動く

様子に驚いて「ワーッ」と言いながら大興奮した。そして自分達でも一生けんめいおなかに息を吸い込んだり吐いたりする動作をくり返して遊んでいた。初めてのことであり、なかなかうまくいかない子もいたが、それでも楽しそうに何回もやっていた。

また、筆者が大あくびをしながらのどの奥をよくあけて発声練習をやってみせると、園児達は大喜びでまねをした。

幼児は、もともと、まねをするのが大好きである。驚いたりすると、なおのこと、あきずに何回もそのことをくり返して楽しむ様子を見せた。腹式呼吸も発声法も幼児にとっては、新しいまねっこ遊びである。

最後に既習曲として「あわてん坊のサンタクロース」を全員で歌った。その時、大声で張り切って歌うと、のど声に戻ることもあったが、その度に、筆者が「あくびだよ」といって大あくびをしてみせると、幼児は思い出して、あわてて柔らかい声で歌ったりした。

② 4歳児クラスの歌唱指導例(初回)

：平成17年1月19日

イ) 軽い体そう

「みんなはお相撲さんが好き？」と子どもたちにきくと、大勢の子どもたちが「好き」と答えた。「じゃあ、今日はみんなもお相撲さんになろうね」と言って『お相撲さんのまわしを、みんなしっかり巻いている』という設定を園児達に説明する。そのうえで、みんなでシコを踏む練習をした。

ロ) 発声練習

「お正月はお餅を食べた？」と聞くと、皆、元気に「うん」と答えた。「じゃあ、今から熱いお餅をみんなで火傷しないように注意して食べようね」と言って「ハフハフ」と口を大きく開けながら、全員が「ドレミレド」の音階でゆっくりと「ア～ア～ア」と発声練習をした。

ハ) 歌

「うたえバンバン」(図①)、「明日は晴れる」

等の既習曲を全員でうたう。

考察

お正月明けの時期で、相撲の初場所があったころなので、力士の話をした。子どもたちは相撲が好きらしく、すっかりお相撲さんになりきって、まわしを締めてシコを踏むという動作を元気に繰り返した。

このようにして、下半身に意識を集中させるようにした上で、次に「お正月にお餅を食べる」という設定で、「やけどしないように注意して口を大きく開けながら」、発声練習をした。これら2つの指導を通して、のどから声を出すというのではなく「おなかから声を出す」ということを体で感じさせるようにした。

最後に既習曲として歌った「うたえバンバン」は、後半部分の中で、特に「あああ いいな 歌声はアイアイアイ」の部分が、自然で無理のない発声法で、のびのびと歌うのに非常に適した曲である。このため、歌唱指導の最後にこの曲を持ってくることによって、子どもたちは一連の流れの中で、存分に声を出して、のびのびと楽しく歌うことを体得できたように思われた。

③ 3歳児クラスの歌唱指導例（初回）

：平成 17 年 2 月 22 日

イ) 腹筋を意識させる

子どもたちに「焼きいも好き？」と尋ねると、皆、好きだと言う。「それじゃあ、これから、やけどしないように、よく、フーフーして少し冷ましてから食べようね」と話しかけ、手に持ったつもりの焼きいもに皆で息を吹きかける動作をする。

ロ) 発声練習

焼きいもを食べようとしたらまだ熱いので、やけどしないように口をハフハフさせながら、その「アチチ」の口の形のままで「ア～ア～ア」と「ドレミレド」の音階で発声練習をする。

ハ) 歌

「小さな世界」等の既習曲を歌う
その時、筆者が「模範唱」をする

考察

熱い焼きいもにフーフーと息を吹きかける動作をする際に筆者の周りに園児達を集めて交替でおなかを触らせた。すると息を吹きかけるたびに筆者のおなかが大きく動くことに園児達が驚き目を丸くして不思議がった。

その続きで「アチチ」の口の形で大きく喉を開けて発声練習をした。

最後に「小さな世界」（既習曲）を筆者が模範唱をした。

幼児は歌を耳で聞き、真似をして覚える。CDやビデオ等を活用することも大事だが、直接「模範唱」を示して子どもに「模唱」させることの大切さを忘れてはならない。

心をこめて教師が歌うことで子どもの心に伝えられるものがあるはずだ。幼い幼児なら、なおさらである。

④ 4歳児クラスの歌唱指導例（発表会に向けての練習）：平成 18 年 2 月 8 日

イ) 歌

「世界中の子どもたちが」、「シアワセ」を歌う

考察

2月26日は平成17年度の学習発表会が行われる。

会場は客席800の大ホールであるが、例年、ビデオを撮影する保護者の方や幼い兄弟姉妹、孫の成長を楽しみに訪れる祖父母の皆さん、そして友人、知人などで、さしもの広い会場もいっぱいになり、熱気に包まれる。

今回、4歳児クラスの子どもたちが歌う曲の中で「シアワセ」(図②)は、曲の解説にも『聴いているだけでしみじみとシアワセになってくる』と書いてあるように、何とも心が温くなる曲である。

うたえバンバン

阪田寛夫 作詞
山本直純 作曲
小島弘章 編曲

♩ = 120

C

1. くー ちをおお きく あ けまして
2. カッ カカッ カブン プン す るかわり
3. むー ねをグー ンと は りまして

C A7 Dm

う たーってご らん アイ アイ アイ そのう たグン グン ひ ろが っ て
う たーってご らん アイ アイ アイ ちょ っぴりお なか も へ るけれ ど
う たーってご らん アイ アイ アイ い つでもど こ でも ど なた ても

G7 C G7 C

だ れかの こ ころと こん にち は ああ あ いい な ーう たご
こ ころが ド カンと ひら きます ああ あ いい な ーあ おい
こ ころが ホ カホカ あっ たまる ああ あ いい な ーう たご

G7 C Fm C

え は アイ アイ アー イせ か い いっ ばい いっ ばい いっ ばい ララ
そ ら アイ アイ アー イあ たら し い ひ が い ま ララ
え は アイ アイ アー イう ちゅう いっ ばい いっ ばい いっ ばい ララ

Dm G7 C

ひびきあうーうたうたえーうたうたえーうたえ
 やーってくるーうたうたえーうたうたえーうたえ
 ひびきあうーうたうたえーうたうたえーうたえ

C A7 Dm

バンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバン
 シンウタウタえーうたうたえーうたえ
 シンウタウタえーうたうたえーうたえ
 シンウタウタえーうたうたえーうたえ

G7 1.2. C 3. C

バンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバン
 バン

© 1970 by Japan Broadcast Publishing Co., Ltd.

図① 「うたえバンバン」

シアワセ①

『おかあさんといっしょ』より

シアワセ ●坂田 修／作詞・作曲●

PIANO SOLO

A D V I C E

Original Key

→聴いているだけでしみじみとシアワセになってくる、そんな曲。
 →原曲では、途中で半音上に転調しているが、難しくなるのでここでは転調せずにアレンジした。
 シアワセをかみしめるように、ゆったりと弾こう。

ARRANGE : MICHYO TSUJI

♩=108

G Am Bm C G Am

Bm C G Bm7 C G Em Bm

C D G B7 C G

Em Bm C G C G C G

こ に あ る - き っ と み つ か る シ ア ワ セ は き み
 の ま わ り の シ ア ワ セ

シ ア ワ セ っ て ど ん な だ ろ う シ ア ワ セ っ て ど

G Bm7 C G Em Bm C D7 G B7

「あさがきた」 「おべんとう」 シアワセ 「ケンカしてなかなかおりました」 「おともだち」 シアワセ 「ともだちができた」 「おかあさん」

1. C G Em Bm C G C G C D

シアワセ 「そらがはれた」 「おとうさん」 シアワセ

2. C G G Bm7 C G

シアワセ シアワセ っ て いっ て る と ほ ん と う

Em Bm C D7 G B7 C G

にシアワセに な る ん だ ね - す て き な こ と ば お ぼ え た よ そ れ

Em Bm C G Em Bm C G

は ね シアワセ そ れ は ね シアワセ そ れ

Em D C G

は ね シアワセ

poco rit......

図② 「シアワセ」

子どもたちは既に十分に練習し、一生懸命に歌っているが、何か足りない。

そこで筆者は子どもたちに「みんなすごく上手だよ。本当によく頑張ったね。発表会には大好きなおうちの方がみんなの歌を楽しみに聴きにみえるよ。すごく広い所で歌うから、客席のお父さんやお母さんの所まで聞こえるように、一生懸命歌おうね」と話した。

そして、どなるのではなくおなかから大きな声で歌うことと、みんなの気持ちが客席の大好きな家族に届くように心をこめて歌うこと、の二つを子どもたちに伝えた。

発表会の当日、筆者は会場の客席で子どもたちの歌を聞いた。そして心が震えるような感動を味わった。

「子どもたちはここまで表現できるんだ!」と思った。

大学にただけでは決して知ることが出来なかったことを子どもたちから教えてもらった貴重な体験だった。

4. おわりに

子どもたちは本当に歌が好きだ。

ある女の子は、「私もお母さんになったら、うた上手になりたい!」と言って目を輝かせた。30分間の歌の時間が終わっても「もっと歌いたい」と言ってなかなか子どもたちは終わろうとしない。5分間延長しても「もっともっと歌いたい」と言う。

筆者が幼稚園における歌唱指導を通して子どもたちから学んだものは大きい。それまで大学で学生に幼児音楽を教えるはいたものの、実際の子どもたちに接したのは初めての経験だった。

幼児の理解力、吸収し表現する力は筆者の想像をはるかに超えていた。現在は、学生に対する指導を通してこれらの経験を伝えている。

最後に、いつも筆者を温かく支えてくださった幼稚園の教職員の皆さまに、心からお礼を申し上げます。

参考文献

- ・初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』2009 音楽之友社 東京
- ・大畑祥子編著『保育内容 音楽表現』1991 建帛社 東京
- ・奥田恵子 他『楽しい音楽表現』2009 圭文社 東京
- ・幼児表現教育研究会編『うたって、つくって、あそぼう』1989 音楽之友社 東京
- ・小林美実編『こどものうた 200』1975 チャイルド本社 東京
- ・小林美実編『続 こどものうた 200』1996 チャイルド本社 東京
- ・『幼稚園 教育要領解説 平成20年10月』フレーベル館 2008

—児童教育学科 初等教育—